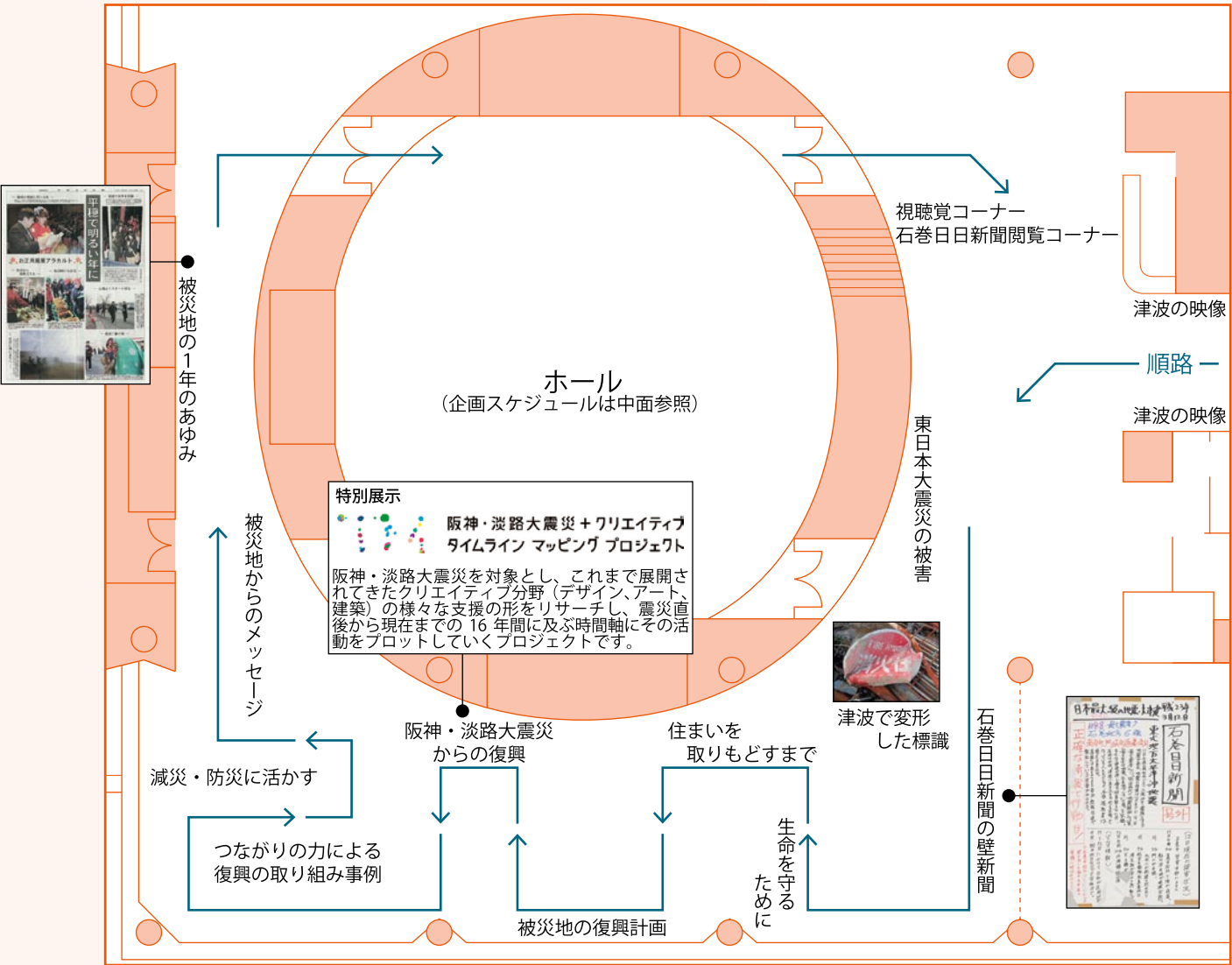




1 階 インターコモン (3 月 9 日～5 月 6 日)

宮城県復興写真展
(撮影：陸上自衛隊東北方面隊)

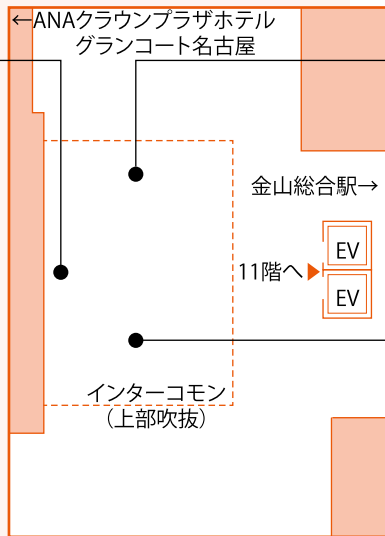
宮城県沿岸被災地の1年の変化を
定点写真で紹介しします。



七ヶ浜町汐見台 2011 年 3 月 15 日

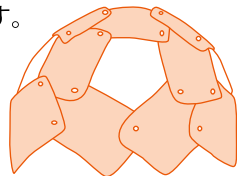


七ヶ浜町汐見台 2012 年 1 月 2 日



とび出せだがねランド
ベニヤ板のシェルタードーム

3 月 11 日 (日) に栄のナディアパークで、
子どもたちがつくったベニヤ板のシェルター
ドームを展示します。



石巻日日新聞社写真展

石巻地方の震災から 8 月までの歩みを紹介します。



感謝で見送り 2011 年 7 月 29 日

申込方法 (電話・ファクス・Eメール)

名古屋都市センター企画課に、イベント名、〒住所、氏名、電話番号をお知らせください。①講演会と★講演会は、講師への質問がございましたらあわせてお知らせください。定員を超えた場合は、参加をお断りする場合がございます。

問合せ 名古屋都市センター 企画課

T E L : 052-678-2212 (月曜日休み)

Eメール: kouenkai@nui.or.jp

F A X : 052-678-2210



このチラシは古紙パルプを含む再生紙を利用しています。

2011 年 3 月 11 日の東日本大震災により、まちは壊滅的な打撃をうけ、人々の生活も一変しました。震災から 1 年が経過し復興の取り組みも進んでいますが、いまだその爪痕は深く残っています。本企画展では、まちの復興に取り組む人々やその活動とそれらを支える人のつながりについて、被災地の活動事例や人々の生の声を通して紹介いたします。



宮城県東松島市大曲 (2011 年 5 月 5 日撮影)

復興

—まちを再建するつながりのカー

2012 年 3 月 20 日 (祝・火) ～5 月 6 日 (日)

休館日 4 月 30 日 (祝・月) を除く月曜日と 5 月 1 日 (火)

名古屋都市センター まちづくり広場



宮城県東松島市大曲 (2011 年 3 月 19 日撮影)



宮城県東松島市大曲 (2011 年 9 月 6 日撮影)

主催／名古屋都市センター
協力／アーキエイド、尼ヶ坂サロン、石巻市、ISHINOMAKI 2. 0、石巻日日新聞社、OLIVE、神戸市、こうべまちづくりセンター、3 がつ 11 にちをわすれないためにセンター (せんだいメディアテーク)、七ヶ浜町、総合広告社、TBC 東北放送、名古屋 N G O センター、名古屋市、なごや防災ボラネット、阪神・淡路大震災＋クリエイティブタイムラインマッピングプロジェクト、東日本大震災 被災者応援 愛知ボランティアセンター、東日本大震災被災者支援ボランティアセンターなごや、東松島市、ビデオプラザ神奈川、M M I X L a b、陸上自衛隊東北方面隊、陸前高田市、レスキューストックヤード (50 音順)
問合せ／名古屋都市センター 企画課 TEL : 052-678-2212 (月曜日休み) 表紙写真提供: 石巻日日新聞社

生命を守る

住まいを取りもどす

まちを取りもどす

避難所での共同生活

仮りの住まいでの生活

再建を目指す“つながりの力”

私たちは何をすべきか

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、東北地方を中心に、甚大な被害をもたらしました。マグニチュード9.0の大地震の後、高いところでは17mを超える大津波が沿岸部のまちを襲い、全国で死者は15,853人、行方不明者は3,282人にのぼりました。また建物被害は、128,746戸が全壊、245,279戸が半壊し多くの人が生活の拠点を失うとともに、生活を支える電気・水道・ガス・ガソリン・通信・交通などが広範囲で麻痺し、被災者の日常生活を奪い去りました。※被害は平成24年2月24日時点



津波によって破壊されたまち
写真：石巻日日新聞社

災害時に生命を失わないことが最も大切です。生命をつないでこそ、明日のまちがあるのです。被災地の方は、“日頃からの備え”、“情報”、“人々のつながり”がいかに大切かを話してくれました。



停電する避難所で過ごす夜
写真：石巻日日新聞社

被災者を支える様々なボランティア活動
被災した人々を支えるため多くのボランティアが被災地や被災地外で活動しました。その活動は多岐にわたり、被災地の状況に合わせて刻々と変化していきました。活動を通してボランティアと被災者のつながりができるだけでなく、被災者同士の新たなつながりのきっかけになっています。

生命を守っても、家を失ったり、家が残っていても電気やガス、水道が止まり、食料、薬、日用品を手に入れることができなくなり、多くの被災者が避難所での共同生活を余儀なくされました。その後、仮設住宅への入居で被災者は生活を取り戻せるように見えます。しかし新しい環境下で、地域とのつながりがなく孤立するケースもあります。人々がまちや生活の将来を考えるには不十分な状況が続いています。



断水のためペットボトルなどに給水する人々
写真：石巻日日新聞社



ボランティアによる炊き出し
写真：MMIX Lab



住居を失った被災者が住む仮設住宅
写真：石巻日日新聞社



周辺住民も参加して開催された仮設住宅での交流イベント
写真：MMIX Lab

被災地の方同士や外部からの支援者と協力し、みんなの力を結集させて、まちの再建が進められています。被災地の多くでは、復興の基礎となる復興計画が策定されました。しかし、復興にはこれから長い年月がかかります。17年前に発生した阪神・淡路大震災の支援活動が現在でもまだ続いていることから、長期にわたる取り組みが必要ながわります。



仮設住宅入居者によるコミュニティ組織の設立総会
写真：石巻日日新聞社



建築家と学生のチームが住民の声を拾いあげた復興案を作成
写真：アーキエイド



仮設商店街のオープン
写真：レスキューストックヤード



地元の子どもたちと仮設商店街に飾る看板を作成
写真：レスキューストックヤード



地域防災力向上の取り組み
写真：レスキューストックヤード



名古屋に住む被災者の交流会

11階ホール
企画スケジュール

3/20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31																															4/1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30																															5/1 2 3 4 5 6																							
(火)(水)(木)(金)(土)(日)(月)																															(火)(水)(木)(金)(土)(日)(月)																															(火)(水)(木)(金)(土)(日)(月)																							
①②③④②⑤休⑥																															休⑦																															休⑧						休⑧						休⑨						休⑩					

①講演会 **要申込（裏面参照）**

「石巻日日新聞が伝えた被災地の1年」

3月20日（火・祝）15:00～17:00

1912年（大正元年）創刊の石巻日日新聞社は、3月11日の大津波で創刊99年の新聞発行が危機に立たされる中、手書きの壁新聞を発行し、被災者の貴重な情報源となりました。被災地のメディアの視点から震災直後の様子や1年のあゆみについてご講演いただきます。

講師：近江 弘一氏（石巻日日新聞社社長）
1958年宮城県石巻市生まれ。大学卒業後、ウェットスーツの製造・販売を知人と展開。2006年4月に地域貢献活動として社会人サッカークラブ「コバルト・レナ川」を設立。2009年6月に石巻日日新聞社代表取締役社長に就任。

②映像上映会

『岩手は 半歩 歩き出す』
著作：（株）総合広告社

3月21日（水）10:30～12:00
3月24日（土）10:30～12:00

東日本大震災での衝撃の津波映像とともに困難に立ち向かう数多くの人々のインタビューを通じて、立ち上がろうとする「負けない岩手」の現状を伝えます。

『東日本大震災の記録～3・11 宮城～』
著作：TBC東北放送

3月21日（水）13:30～16:00
3月24日（土）13:30～16:00

TBC東北放送の報道カメラマン達がとらえた映像をはじめとして、宮城県内各地で撮影された巨大地震・大津波の実態を紹介します。

③減災まちづくりシンポジウム **要申込**

「歴史に学んで未来に備える～地域力向上のために～」

3月22日（木）14:00～16:30

■ミニ講演：小松 尚氏（名古屋大学大学院准教授）
■減災まちづくり情報システムのデモ・インストール
■パネルディスカッション
コーディネーター
福和 伸夫氏（名古屋大学減災連携研究センター長）
パネリスト
小松 尚氏（名古屋大学大学院 准教授）
長崎 弘氏（消防局 防災・危機管理監）
川口 泰男氏（住宅都市局 都市計画部長）
松田 曜子氏（レスキューストックヤード 事務局長）
藤森 幹氏（株式会社 対話計画）

【申込・問合せ】名古屋都市センター 調査課
TEL：052-678-2216
FAX：052-678-2211
Email：gensai@nui.or.jp

④講演会 **要申込（裏面参照）**

「まちの復興と人のつながり～阪神・淡路大震災から学ぶ～」

3月23日（金）18:30～20:00

今から17年前に発生し、大きな被害をもたらした阪神・淡路大震災。その被害からの生活再建について、神戸市全域で住民参加型の検討会（ワークショップ）などを通して検証した立木茂雄教授から、まちの復興における人のつながりの大切さについてご講演いただきます。

講師：立木 茂雄氏（同志社大学社会学部教授）
1955年兵庫県生まれ。1978年関西学院大学社会学部卒。同社会学研究科修士課程修了後、トロント大学大学院に留学。同博士課程修了。関西学院大学社会学部教授を経て2001年4月より現職。専門は福祉防災学・家族研究・市民社会論。

⑤映画上映会 **要申込（裏面参照）**

『無常素描』
監督：大宮浩一 製作：大宮映像製作所

3月25日（日）13:00～14:30

（映画解説）
そこで出逢ったひとびとは、静かに語りはじめ。一台のカメラが、その声と風景を何度も往復しながら、ただひたすらに素描を重ねていく。日付も地名も、人の名も付すことのないこの映画は、未曾有の大地震と津波の跡を、そして、その後もなお続くいとなみを、決して情報に還元することなく、スクリーンに大きく映しだしてゆく。

©大宮映像製作所

⑥展示

「阪神・淡路大震災からの復興」
3月27日（火）～4月1日（日）
阪神・淡路大震災で大きな被害を受けた神戸市。震災復興土地区画整理事業を始めとする復興の取り組みの中で大きな役割を果たした、地域の住民が組織する「まちづくり協議会」と神戸市の協働のしくみについて紹介します。

★講演会 **要申込（裏面参照）**

「被災地を知る～陸前高田市で働く名古屋市職員の体験より～」
4月21日（土）14:00～16:00
場所：11階まちづくり広場内交流サロン
岩手県陸前高田市へ赴き、現地の方とともに、まちの復興に従事している名古屋市職員から、自らの目で見た被災地の状況についてお話しいただきます。

⑦展示

「復興を支えるカー東北の団体一」 4月3日（火）～8日（日）
【紹介する団体】
ISHINOMAKI 2.0：石巻中央商店街の若手店主やNPO、各地のデザイナー、建築家、大学の研究室など様々なジャンルの有志が一体となって取り組む石巻のまちづくりプロジェクト。地元の人間と全国のありとあらゆるリソースとのコラボレーションや実験的ワークショップを行いながら、石巻商店街再生を促進するために活動を行う。
3がつ11にちをわすれないためにセンター：震災の影響とともに向き合い考えるため、せんだ

⑧展示

「アーキエイド巡回展」主催：アーキエイド
4月10日（火）～22日（日）
2011年7月、石巻市牡鹿半島に全国から建築家と学生のチームが集結し、住民とともに未来の姿を考えるアーキエイドサマーキャンプ『半島“へ”出よ』を行いました。今回はその時に作成した模型とパネルの一部を展示します。建築家と建築を学ぶ学生が考える被災地の未来の姿をご覧ください。
写真：アーキエイド

⑨展示

「復興を支えるカーこの地方の団体一」4月24日（火）～30日（月・休）
【紹介する団体】
名古屋NGOセンター：貧困・紛争・環境破壊などの課題を解決するために、市民主体の活動を中部地域にて支援している。加盟団体が被災地の支援活動等を行う。
東日本大震災被災者支援ボランティアセンター：石巻市牡鹿半島の十八（くぐり）浜を毎週末に大型バスで訪問。「くぐり食堂」と銘打ち、仮設住宅と地域の住宅約100軒に約200食の温かい定食を提供し、食事を楽しみながら人間関係の再生を手伝っている。

⑩展示

「いのちを守るアイディア展 OLIVE」
5月2日（水）～6日（日）
主催：OLIVE
身のまわりにあるものを使ってつくれる防災アイデアを展示します。5月6日（日）には、ワークショップや親子ワークショップも開催します。
申込方法など詳細は、名古屋都市センター企画課にお問い合わせください。
(TEL:052-678-2212)

写真：OLIVE